

市指定文化財<工芸品>

ちやうす ちやがま
茶臼・茶釜

指定日 昭和41年4月15日

所在地 菊池市隈府 菊池神社



葉茶を挽いて抹茶とするのに用いる石臼を茶臼というが、この茶臼は磨臼で円筒形であり、直径36cm、厚さ20cmの下臼と、直径21cm、厚さ10.5cmの上臼との2個からなっている。上臼が下臼の心棒を軸として回転するもので、回転部分に浅い溝が中心にむかって彫られている。菊池家重臣隈部忠直の愛用品だったと伝えられる。

茶釜は鎌倉末期に芦屋(福岡)、天明で製作されたものが最も古いといわれる。室町中期以後、茶の湯の師匠が生まれて、その好みに応じて茶釜が作られるようになった。茶釜は床の間の掛け軸とともに、茶道具の中では最も重要な地位を占めるものである。

菊池神社に保管される茶釜は、楕円形で、直径24cm、口径10cm、高さ9cmのもので、茶臼とともに室町時代のものとされる。使用时沸湯の際に蟬の鳴き声に似た音を出すので「蟬の音釜」といわれる。